

# 稲作情報 No.17

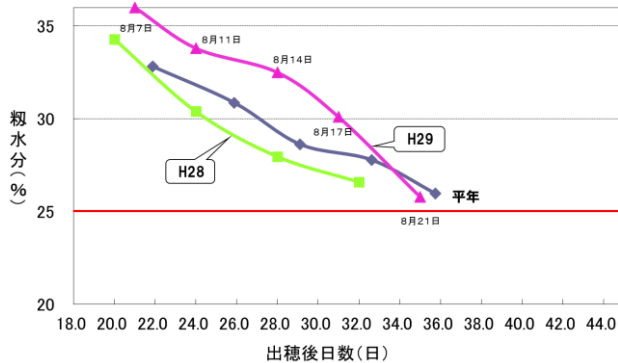
〔8月21日水稻登熟状況、大麦圃場準備〕

水田農業レベルアップ委員会技術普及部会（農業試験場、福井米戦略課、組合員トータルサポートセンター、JA経済連、主要農作物振興協会）

<http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/noushi/inasaku/2017inasaku.html>

- ・降雨が続き、ハナエチゼンの刈取りが遅れている。適期を過ぎたハナエチゼンでは胴割粒の発生がみられるので、天候が回復次第刈取りましょう。
- ・地域で籾水分を測定して適期収穫に備えましょう。
- ・大麦を播種する圃場では、稲刈りが終わりしだい、排水溝を設置しましょう。

## 【農試におけるハナエチゼンの籾水分】



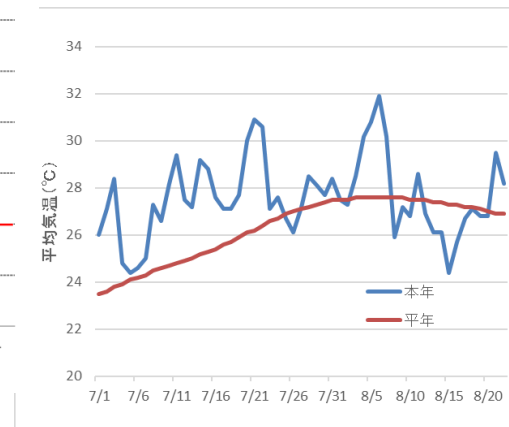
- ・農試ハナエチゼンの籾水分は高めに推移。
- ・青籾残存率はやや高めに推移。
- ・**胴割粒が1.3%発生。**

## 【農試における出穂期以降の積算気温に基づく収穫期予想】

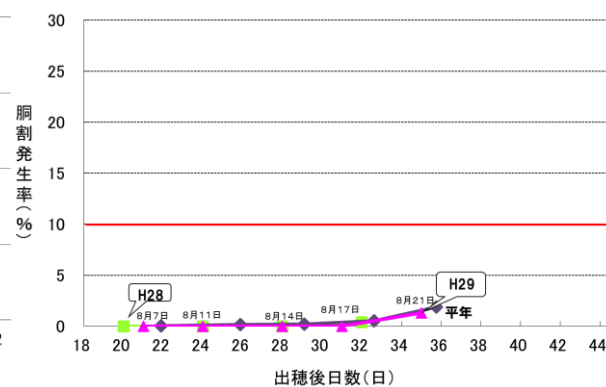
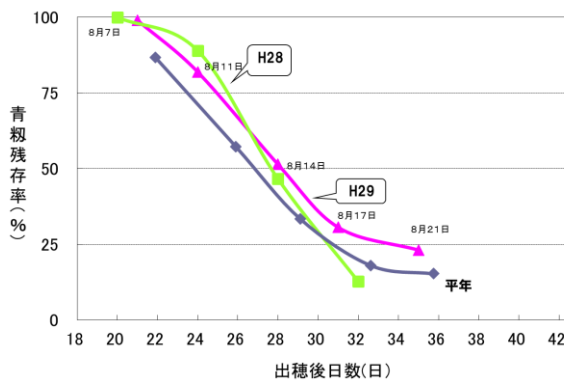
ハナエチゼン(5月2日植)	出穂期	7月17日
	積算気温860°Cに到達する日	<u>8月17日</u>
コシヒカリ(5月20日植)	出穂期	7月29日
	積算気温990°Cに到達する日	<u>9月4日</u>

上記は今後平年並の気温で経過することを前提に算出。今後の気象条件等で変動するので、これを目安に籾水分等を確認して刈取り日を決める。

## 【7月以降の平均気温(福井)】



7月以降かなり高温に経過したが、8月8日に台風が通過してからは曇りがちな日が続き、気温は平年よりやや低く経過した。8月21、22日は気温がやや高まった。



【今後の栽培管理】

栽培管理	管理方法
<p>間断通水で登熟向上 適期収穫で胴割れ防止</p>	<p><b>【ハナエチゼン】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫直前まで間断通水を実施し根に酸素と水分を供給する。収穫直前まで圃場の土が白く乾かないようにする。圃場が軟弱な場合は徐々に土を硬くするように努める。排水側の乾き具合も確認して入水を判断する。</li> <li>・各地域の出穂後の積算温度から成熟期を大まかに予測する（ハナエチゼンの成熟期は出穂後の積算温度でおおよそ860℃）。</li> <li>・予測に基づき圃場ごとの<u>籾水分調査</u>を行う。圃場条件（土質や葉の枯れ上がり、倒伏状況）を考慮した収穫順序を考える。</li> <li>・<u>葉色が淡い、穂が小さい、籾数が少ない</u>と早く籾が黄化する傾向にある。圃場の土壌条件（土質、地力、水持ち等）や<u>葉色の推移、下葉の枯れ上がり、成熟期直前の降雨</u>に留意し、適期刈取により胴割れ防止に努める。</li> <li>・収穫後は、<u>わらの腐熟促進と漏生籾の発生防止</u>のため早めに秋起しを行う。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>注意！</b> 秋起しはハナエチゼンの圃場もコシヒカリ収穫後に行う場合が多い。 ハナエチゼン圃場のヒコバエが実って翌年に漏生籾が発生する事例が発生している。</p> </div> <p><b>【コシヒカリ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫直前まで間断通水を実施し根に酸素と水分を供給する。収穫直前まで圃場の土が白く乾かないようにする。圃場が軟弱な場合は徐々に土を硬くするように努める。排水側の乾き具合も確認して入水を判断する。</li> <li>・<u>フェーン現象や強風の日</u>は終日深水管理とする。これらが治まったら直ちに落水する。</li> <li>・直播栽培では、根域が浅いので表面の土の乾燥に特に注意する。</li> <li>・各地域の出穂後の積算温度から成熟期を大まかに予測する（コシヒカリの成熟期は出穂後の積算温度でおおよそ990℃）。</li> <li>・予測に基づき圃場ごとの<u>籾水分調査</u>を行う。圃場条件（土質や葉の枯れ上がり、倒伏状況）を考慮した収穫順序を考える。</li> <li>・<u>葉色が淡い、穂が小さい、籾数が少ない</u>と早く籾が黄化する傾向にある。圃場の土壌条件（土質、地力、水持ち等）や<u>葉色の推移、下葉の枯れ上がり、成熟期直前の降雨</u>に留意し、適期刈取により胴割れ防止に努める。</li> <li>・カメムシ類の発生は平年並み。カメムシ防除を地域ぐるみで適期に行う。<u>斑点米の発生が毎年多い地域では収穫14～7日前にも防除</u>を行う。コシヒカリの周辺にハナエチゼンがある圃場で防除する場合は、ハナエチゼンの収穫時期に注意が必要である。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div> <p style="text-align: center; margin-top: 5px;">一つの水田で入水側は十分湿っていても… 排水側は相当乾いている</p> <p><b>【その他の品種の成熟期を予測する積算温度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イクヒカリ 990℃</li> <li>・あきさかり 1070℃</li> </ul>

【生育調査結果】

		ハナエチゼン			コシヒカリ								あきさかり		
		農試	坂井農場	現地	農試		坂井農場		現地・慣行		現地・特別栽培		農試	坂井農場	現地
		移植 5/2	移植 5/2	移植 4/29	移植 5/20	直播 5/9	移植 5/16	直播 5/6	移植 5/15	直播 5/4	移植 5/25	直播 5/3	移植 5/2	移植 5/16	移植 5/13
幼穂 形成期	本年	6/30	6/29	6/28	7/12	7/17	7/12	7/14	7/10	7/11	7/18	7/19	7/9	7/14	7/15
	平年	6/27	6/27	6/29	7/12	7/16	7/10	7/16	7/12	7/15	7/15	7/12	7/9	7/14	7/11
出穂期	本年	7/17	7/18	7/17	7/29	8/4	7/29	8/5	7/30	8/2	8/8	8/7	7/29	8/2	8/5
	平年	7/19	7/18	7/21	8/2	8/7	8/2	8/7	8/2	8/5	8/7	8/3	8/2	8/6	8/2

【農試気象対策試験における出穂期の止葉の葉色（SPAD値）】( )は平年比

年	ハナエチゼン	コシヒカリ	あきさかり
29年（SPAD）	35. 6(93)	35. 8(104)	36. 2(108)
28年（SPAD）	35. 2	32. 1	33. 0
27年（SPAD）	34. 8	36. 2	31. 6
26年（SPAD）	40. 8	34. 6	35. 4

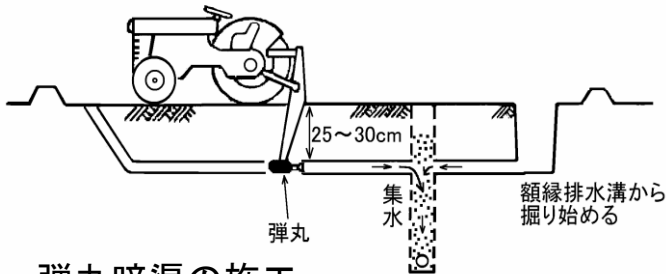
作業	作業の注意点
圃場準備(排水対策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>排水口（水尻落とし口）は水稻の水管理で高いことが多い。必ず額縁排水溝の底面より下になるよう掘り下げ、スムーズに水が流れ落ちるようにする。</li> <li>額縁(周囲)排水溝を水稻刈取後できるだけ早く、25～30cmの深さの溝を設置し、圃場の乾燥に努める。</li> <li>サブソイラ補助暗渠の施工は、額縁排水溝設置後すぐに行う。深さ25～30cmで額縁排水溝と連結し、本暗渠と直交に施工する。補助暗渠の施工は、大麦作だけでなく、後作の大豆作やそば作の排水対策にも有効である。</li> <li>サブソイラ施工間隔は通常2～4m。排水が悪い圃場は1.5～2mを目安とする。</li> <li>サブソイラ施工時は額縁排水溝底から引くように施工する。本暗渠と直行方向だけでなく、平行方向にも補助暗渠を設置すると一層排水効果が高まる。また大豆作においてかん水能率も高まる。</li> <li>圃場内排水溝の深さは25～30cm、間隔は3～5m（畝幅）とする。圃場の排水性、播種作業、後作の大豆等の播種作業幅も勘案して施工間隔を決める。</li> <li>暗渠がない場合やサブソイラの施工ができない場合は明渠の数を多くし排水に努める。</li> <li>枕地の畝を作った場合には、畝を切って圃場内部から直接排水口に繋がる排水溝を必ず追加する。</li> </ul>



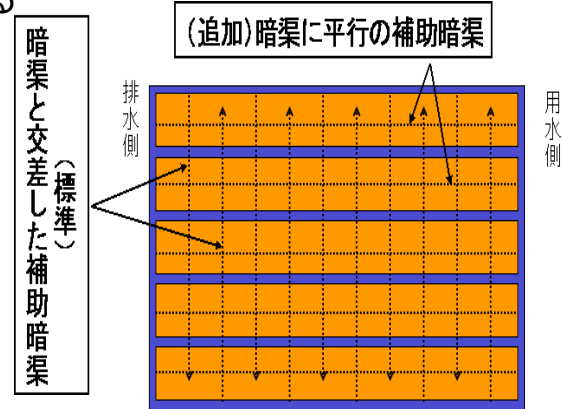
・トレンチャーによる額縁排水溝の設置



・排水溝が高い場合は畦畔を切り排水する



・弾丸暗渠の施工



## 大豆

作業	作業の注意点										
病害虫防除	<p data-bbox="395 201 1742 229">・紫斑病と組み合わせて適期防除に努める。朝夕風のない時間帯に、薬剤が莢に充分付着するよう散布する。</p> <table border="1" data-bbox="401 265 1984 682"> <thead> <tr> <th data-bbox="401 265 770 311">病害虫</th> <th data-bbox="770 265 1984 311">防除</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="401 311 770 362">紫斑病</td> <td data-bbox="770 311 1984 362">発生量は平年並み。開花20～35日後(8月10日～25日)に防除する。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="401 362 770 414">シロイチモジマダラメイガ</td> <td data-bbox="770 362 1984 414">若莢期から莢伸長期の8月中旬以降に防除する。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="401 414 770 551">フタスジヒメハムシ</td> <td data-bbox="770 414 1984 551">第2世代成虫の発生初期である8月中旬頃と発生最盛期である8月下旬頃の2回防除を基幹とする。 〔要防除水準は、8月下旬(第2世代成虫発生盛期)に払い落としを行い、1.5m、2条当たり約70頭以上の場合には直ちに防除する。〕</td> </tr> <tr> <td data-bbox="401 551 770 682">カメムシ類</td> <td data-bbox="770 551 1984 682">圃場への侵入が多くなる子実肥大期(8月下旬)以降に防除を行う。 〔要防除水準は、8月下旬(圃場侵入期)は100個体当たり0.3頭以上いる場合は防除を行う。〕</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="395 801 1100 829">・薬剤は最寄りのJAで取扱いの薬剤を御確認ください。</p>	病害虫	防除	紫斑病	発生量は平年並み。開花20～35日後(8月10日～25日)に防除する。	シロイチモジマダラメイガ	若莢期から莢伸長期の8月中旬以降に防除する。	フタスジヒメハムシ	第2世代成虫の発生初期である8月中旬頃と発生最盛期である8月下旬頃の2回防除を基幹とする。 〔要防除水準は、8月下旬(第2世代成虫発生盛期)に払い落としを行い、1.5m、2条当たり約70頭以上の場合には直ちに防除する。〕	カメムシ類	圃場への侵入が多くなる子実肥大期(8月下旬)以降に防除を行う。 〔要防除水準は、8月下旬(圃場侵入期)は100個体当たり0.3頭以上いる場合は防除を行う。〕
病害虫	防除										
紫斑病	発生量は平年並み。開花20～35日後(8月10日～25日)に防除する。										
シロイチモジマダラメイガ	若莢期から莢伸長期の8月中旬以降に防除する。										
フタスジヒメハムシ	第2世代成虫の発生初期である8月中旬頃と発生最盛期である8月下旬頃の2回防除を基幹とする。 〔要防除水準は、8月下旬(第2世代成虫発生盛期)に払い落としを行い、1.5m、2条当たり約70頭以上の場合には直ちに防除する。〕										
カメムシ類	圃場への侵入が多くなる子実肥大期(8月下旬)以降に防除を行う。 〔要防除水準は、8月下旬(圃場侵入期)は100個体当たり0.3頭以上いる場合は防除を行う。〕										

# ふくいアグリネット「稲作情報システム」のご案内

ふくいアグリネット <http://www.agri-net.pref.fukui.lg.jp/>  
 稲作情報システム [http://www.agri-et.pref.fukui.lg.jp/gizyutsu/ine\\_sys/index.html](http://www.agri-et.pref.fukui.lg.jp/gizyutsu/ine_sys/index.html)

**①ふくいアグリネット・トップ→ 農業技術情報 →稲作情報システム**

**②年度、情報(生育状況、収量・品質)、地域、地点を選択**

**③生育状況、収量、品質のグラフを表示**

福井県農業情報ポータルサイト「ふくいアグリネット」において、県内各地(約40地点)の水稻の生育状況や収量・品質の調査データを「稲作情報システム」で掲載しています。現在の生育状況はもちろん、過去のデータ(生育、収量・品質)を調べることができます。ぜひご利用ください。

8月23日5時 福井県の週間天気予報

**【天気予報】**

日付	23 水	24 木	25 金	26 土	27 日	28 月	29 火
福井県	曇時々雨 	曇時々雨 	曇一時雨 	曇 	晴時々曇 	晴時々曇 	曇時々晴 
降水確率(%)	~/60/40/60	60/60/30/10	70	40	30	30	30
信頼度	/	/	C	C	B	C	C
最高(℃)	31	32	30 (27~34)	30 (27~32)	30 (28~32)	30 (28~33)	30 (27~33)
最低(℃)	/	25	25 (24~26)	24 (22~26)	23 (20~25)	22 (19~25)	23 (21~25)

**【メールマガジン e農メール】**

e農メールの登録については、こちらをご覧ください。  
[http://www.agri-net.pref.fukui.lg.jp/a\\_mail.html](http://www.agri-net.pref.fukui.lg.jp/a_mail.html)



携帯電話ではQRコードで簡単アクセス

気象庁 気象統計情報(各種観測データ)  
<http://www.jma.go.jp/jma/menu/report.html>

# 秋の田起こしによる おいしい米づくり を推進しています

## Point

- 1 気温が高い10月中に実施**  
 土中にすき込み、稲わらの腐熟を促進
- 2 田起こしはゆっくり、深さ15cmを確保**  
 速度は歩く速さの1/4が目安 今ある機械で実践可能
- 3 有機物・ケイ酸の補給**  
 稲わらの腐熟により有機物やケイ酸が増え、地力UP

深く起こすと根の張りが悪くなり、反収が多く、品質の良い米ができるよ。



### 収穫時の根の状態

耕うんの深さ  
9cm



耕うんの深さ  
15cm



反収アップで  
収入増!!

反収

約530kg



約580kg

胴割発生減で  
品質向上!!

胴割発生率

約13%



約1%

10月中の秋起こしを完了できるよう計画的に作業を進めましょう。

お問い合わせは福井県嶺南振興局農業経営支援部まで